



# 「らしくない」職場 効果あり

中小企業や製造業のしくみは、おしやれでオープンなオフィスを三重でも。松阪市大口町の保冷剤や医療用冷却剤メーカー「三重化学工業」が二月、そんなコンセプトの新しい本社社屋を作った。稼働から約四カ月、社員や本社を訪れる取引先との垣根がなくなり、さまざまなコミュニケーションの機会を生み出している。

(清水悠利子)

## 松阪の三重化学工業



入り口に近くに構えられた、ガラス張りのR&D室。いずれも松阪市の三重化学工業で

### 見える研究開発室、開放的、カフェのような一角…

新社屋はかつて、旧マックスパリュウ中部(現マックスパリュウ東海)の本社があった鉄骨二階建てを購入し、一階部分千八百八十九平方メートルを改修した。部屋を完全に仕切る壁やドアがなく、開かれている。社員に自席はなく、アウトドア用のイスや小上がりの畳、カフェをイメージした一角など、好きな場所で仕事をす

る。玄関を入ってすぐの場所には、ガラス張りの「R&D(研究開発)室」がある。旧社屋では工場の片隅で社員でもほとんど訪れることがなかった部屋を、社員や来客の目に留まる位置に置いて、新商品の開発などをしている。機材なども見える。山川大輔社長(音)は「うちの主役はものづく

## コミュニケーション機会増加

り。見せたいと思っていた」と話す。R&D室の近くには長机があり、会議に使われる。会議で持ち上がったアイデアをすぐにR&D室で実験に移すこともあるという。社員の水谷啓道さん(音)は「最初は見られて緊張したが、商談の最中にもすべ

試作できてスピード感が増し、作る場を知ってもらう機会になった」と喜ぶ。新社屋は二〇二〇年に立ち上げ、社内外の人材十人程度で新商品開発や販路拡大施策などを考える「ミエラボ」の拠点としても使

う。山川社長は「社員や客同士の出会う機会が増えた。やって良かった」と手応えを語る。県内では特に南部で就職や進学に伴う若者の流出が深刻な問題となっていることから、「地元にも良い環境があれば、きつと残ってくれると思う。地域」の他の企業にも広がれば」と期待する。



R&D室近くの長机で会議をする山川社長(音)ら

新築・増改築のことなら  
**3rdホーム**  
津市殿舟 059-2374488  
見積無料

「歯磨きをしながら」家 祖母・奥山とち  
孫 電動歯ブラシがほしいの  
私 なんぞ？  
孫 たって 手を動かさなくても  
い いやん  
たなか・はると(6) 鈴鹿市寺津部田、母・鈴木佑子

三重化学工業社長に学生が新商品を提案 四日市大で授業  
大学生が企業の新商品のアイデアを考える授業が六日、四日市市萱生町の四日市市大であった。同大の三、四年生の二十七人が五グループに分かれ、保冷剤などを製造する三重化学工業



新商品のアイデアを発表する学生たち=四日市市萱生町の四日市大で

(松阪市)の山川大輔社長を前に発表した。同大の全学部共通の授業「ビジネスマネジメント」の一環。授業は四月下旬から計五回あり、各グループに三重化学工業の社員が入り、新商品の開発意図や商品価格、販売方法などを一掛けた。(神尾大樹)

緒に考えた。発表では、スマートフォンやランドセル専用、スポーツ時の熱中症対策に特化した保冷剤の提案があった。発表後には学生から「社員のひと話し合っって商品化という目線で物事を考えることができた」と声があがった。